

日本文学の魅力に迫る

～日本三大随筆を読む 「方丈記・徒然草」編～

徒然草 1

講師：現代歌人集会 理事長 林 和清先生

日時：7月28日（月） 10：00～11：50



■作者：兼好法師

鎌倉後期の隠者で歌人、俗名ト部兼好。その名を音読して法名とした。吉田社を預かる家の庶流に生まれた。後二条朝に仕えて六位蔵人から左兵衛佐に至ったが30歳前後で出家した。

■徒然草：兼好法師が書いた随筆。清少納言「枕草子」鴨長明「方丈記」と並び日本三大随筆の一つと評価されている。

序段を含めて243段から成る。内容は多岐にわたり、序段には「つれずれなるままに」書いたと述べ、その後の各段では、兼好の思索や雑感、逸話を長短様々、順不同に語り、隠者文学に位置づけられる。

■午後の活動

各班に分かれて、懇親食事会

- ①フランス料理・ボンマリー高槻店で開催（班コメント：色々な話題で盛り上がり、別日の班活動の計画もしました）
- ②がんこ高槻店で開催（班コメント：楽しくおしゃべりして有意義な懇親会でした）
- ③安満遺跡公園で開催（班コメント：非常に暑い中、安満公園まで歩きました。盛夏の屋外の活動は、厳しいものがありましたが、目的の親睦を図り、また、同公演の展示物も興味を持って見学することができました）
- ④ホテル「アベストグランデ」で開催（班コメント：1Fの「リトルグリーンカフェ」で美味しいランチと生音楽の演奏を聴きながら、優雅なひと時を過ごしました）
- ⑤桃谷楼 高槻阪急で開催（班コメント：普段は授業のあとゆっくりお話もできませんが、今日はおしゃべりしながら楽しくランチできました。時々こういう時間もあれば交流が深まるかなと思いました）

